The 37th Tokyo Motor Show
Passenger Cars & Motorcycles

No.16

東京モーターショーニュース

2003年10月26日発行

発行所　社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部
〒100-0004　東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル
Publisher : Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.
Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN
TEL 03-3211-8919　FAX 03-3211-5798 WEBSITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA

“一般公開”

新型モーターショー 好調なスタート

第37回東京モーターショーが25日（土）一般公開された。2年ぶりの乗用車・二輪車ショーとあってか、早朝から待ちわびていた若者たちを中心に、午前9時30分の開門を前に各ゲートとも長蛇の列ができていた。新しくモデルチェンジされた今回のショーに来場者がどんな反応を示すか注目されたが、環境体験ランドをはじめ各種イベントとも好調なスタートだった。

薄曇りでやや肌寒い感じの初日だったが、開門前から北1・北2ゲートにはJR海浜幕張駅からの来場者の列が途絶えることなく続いていた。西1ゲートはメッセ駐車場連絡デッキが開門を待つ人で埋まり、その列は駐車場の中までつながっていたほどで、メインゲートには前回（第35回）を上回る来場者が訪れていた。各ホールとも30分ほどで賑わいはじめ、中でもテレビや新聞情報で得た人気ブースには多くの来場者が集まり、周囲は活気に満ちあふれていた。今回は環境・安全・IT技術を駆使した多彩なコンセプトカーや新しいデザインのスポーツモデルの出展が目立つが、若者たちはこれらのスポーツカーに興味を示していたようだ。市販間近のニューモデルを含め、展示車全体では前回と違ってグローバル感覚のクルマが多いことに関心を持っていたようである。新型モーターショーの目玉でもある環境体験ランドへの出足は好調で、燃料電池車などの同乗試乗会を希望する人で受付前は早くから列ができていた。国際会議場2階で開かれた「カーデザイン」のシンポジウム（有料）も参加者が330人を超え、会場は満席だった。イベントホールの「カロッツェリア展示」は学生や若い男女で賑わい、主催者の狙いどおり若者たちの集客につながっていたようだ。

西休憩ゾーンで展開している「フェスティバルパーク」も親子連れで賑わい、午後1時からの「トラフィック戦隊アンゼンジャーショー」は子供たちで満席の状態。千葉県警のサービスで入場記念の「こども免許証」発行コーナーも人気で、順番を待つ子供たちが楽しそうに列を作っていた。

The 37th Tokyo Motor Show Passenger Cars & Motorcycles

『Carrozzeria & Cafe』 世界5ヵ国から「カロッツェリア」が出展

個性とこだわりの魅力あふれる13社・30台

― オープンカフェの雰囲気で憩いのひと時も

世界最速の時速400kmに挑戦する「慶應義塾大学電気自動車研究室」(写真上)
産学協同で大学での研究事業として環境対応型の自動車開発に取り組んでいる慶応義塾大学が開発した「ELIICA」。来年3月、世界最速記録の樹立を目指している。

東京モーターショーの呼び物のひとつがイベントホールの特別企画展示。今回は、新型・東京モーターショーの基本コンセプト「参加・体験型ショー」に沿って、国内外のカロッツェリア13社がオリジナルカーやチューニングカー30台を展示している。こだわりの魅力と個性あふれるデザインを身近に味わえる斬新な企画展示とあって、クルマ好きの若者層や女性を中心に、イベントホールは大変な賑わいだ。

「カロッツェリア」とは「カーデザイン工房」という意味のイタリア語で、数々の名車デザインを生み出していることでも知られる。こうした企画によるオリジナルメーカーの出展は東京モーターショーでも初めてで、世界最高速記録に挑む8輪電気自動車から高性能スポーツカー、レーシングカー、3輪乗用車、ミニ電気自動車、電気スクーターや小型フォーミュラカーまで盛り沢山。

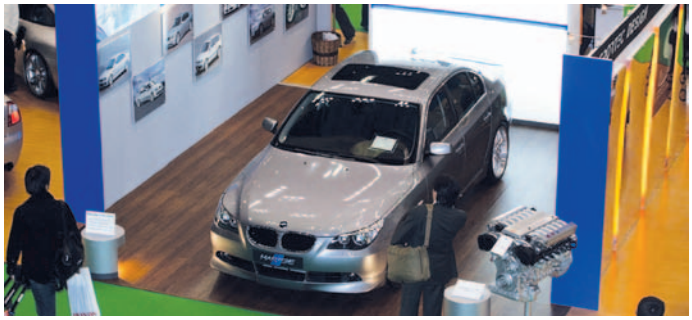
出展しているのは、ドイツからBRABUS、GEMBALLA、HARTGEの3メーカーをはじめ、イギリスのGRINNALLとTVR、デンマークのKLEEMANN、スイスのSPORTECとARMEC、日本からはOHNO CAR CRAFT、チョロキューモーターズ（提携メーカーのZAGATO含む）、SIVAX、東京アールアンドデーの4メーカーと慶應義塾大学。このほかに、「2003年全日本学生フォーミュラ大会」（自動車技術会主催）の上位入賞車3台も特別展示されている。

展示コーナーを目の前にした「カロッツェリア・カフェ」では、ゆっくりと洒落た雰囲気の時間を過ごすカップルも。モーターショーの中に身をゆだねられるコーナーが『Carrozzeria & Cafe』である。

『Carrozzeria & Cafe』はクルマ好きがホットする空間
展示コーナーの一角に設けられた「カロッツェリア・カフェ」は、展示車を眺めながらゆっくりと洒落た雰囲気を味わう憩いの場。

メルセデスのパワーアップ「BRABUSチューン」
メルセデスベンツのチューナーズ・ブランドBRABUSのコーナーには2台のコンプリートカー。その1台「S600」をベースにした「SV12」は640馬力を発揮する。

ポルシェのスペシャリスト「GEMBALLAチューン」
「車としての快適性や日常性を失わずに極限まで挑戦する」という美学を掲げるGEMBALLAコーナーで、注目は新型ロードスター「BITURBO R-GTR 500」だ。



BMWを磨き上げる「HARTGEチューン」
幅広いラインナップを誇る伝統のパワフルなエンジンとエアロダイナミックなパーツ、アルミホイールでBMWを磨き上げるHARTGE。「New H530K」が異彩を放つ。

メルセデス専用コンプレッサーメーカーの「KLEEMANN」
デンマークのメルセデス専用コンプレッサーメーカーKLEEMANNが手がけた「SL50Kガルウィング」が並ぶ。世界最速をアピールしている。

電子制御マシンのチューン技術誇る「SPORTECチューン」
電子制御マシンのチューンに技術力を発揮するスイスのチューナー・SPORTEC。目を引くのが「SPORTEC RX-8」。速さの追求にとまらない、その魅力をアピールする。

年販50台ながらアピール度満点「TVR」
イギリスのスポーツカー・ビルダーTVR。国内販売台数は年間50台ながら根強いファンは多い。「TUSCAN」の印象は強烈だ。「T350」にタルガトップも登場する。

オリジナルデザイン追求する「OHNO CAR CRAFT」
カロッツェリア・スクール・プロジェクトの開校に取り組む大野俊彦氏が意欲を持って手がけたのが「メルセデスR129」をベースにした「NAOMI V」だ。

チョロQからモータースポーツへ「チョロキューモーターズ」
電気自動車「Qカー」を相次いで投入するチョロキューモーターズは美祢サーキットの経営権取得など意欲的。サーキットを電気自動車活動の場に活用する。

ユニークな3輪乗用車「city-mobil」、「Scorpion III」
スイスのARMECが開発した「city-mobil」(写真奥)は前1輪・後2輪、英GRINNALLの「Scorpion III」(写真手前)は、BMW社製モーターサイクルのエンジンを搭載。

日本唯一のカロッツェリアを自負する「SIVAX」
木型モデル製作技術をもとにカーデザインから開発、設計、総合検査まで自社でまかなう一貫体制を確立。そこから登場したのが、「GENOS」(右)と「KIRA」だ。

レーシングカーなどで実績蓄積した「東京アールアンドデー」
レーシングカーや電気自動車、カーボンファイバー技術をもとに開発した車は、英VEMAC社で生産、「RD350」(左)は全日本GT選手権でも実績を残している。

全日本学生フォーミュラ上位入賞の3台も
加速性能などの走行性能やデザインなどものづくりの優秀性を競う大会で優勝した上智大学、2位・国士舘大学、3位・東京大学のマシンも会場の一角に。

The History of the Tokyo Motor Show

シンポジウム

基調講演　自動車評論家 徳大寺 有恒 氏
　　ニスモ名誉会員 片山 豊 氏
パネラー　服飾評論家 大内 順子 氏
司　　会　キャスター 西村 亜紀子 氏

徳大寺有恒氏

片山豊氏

もっと運転を楽しもう（徳大寺氏）

基調講演で徳大寺氏は、昭和29年に開かれた第1回全日本自動車ショウを水戸から父に連れられて見にきた思い出を語る一方で「最近は車の運転を“労働”と感じる人が増えてきた」とする見解を示し、注目を集めた。しかし「運転は楽しい。高い車を買ったんだから運転を楽しむ自分をみつけて」と会場に語りかけた。

Zカーの産みの親である片山氏は「自動車を普及させるためにショーを開こうと、およそ半世紀前、大手メーカー6社の宣伝担当が集まり六日会という会をつくったが、反対が多くて計画が進まなかった」。そこで一計を案じ「通産省（当時）の力を借りて押し切った」という“秘話”を披露した。

パネルディスカッションでは活発な意見の交換が行われたが、未来のモーターショーについて大内氏は「ショー自体がもっとカテゴライズされるべき」と、片山氏は「入場者数でショーを評価するのではなく、中身で評価すべき」と主張。徳大寺氏は「入場料が高い。案内をもっと親切に。交通アクセスを考えるべき」と具体的な提案。

4記者の目

フォーバイフォーマガジン社特約記者
鈴木 一史 さん

フォーバイフォーマガジン社の月刊誌「X－OVER」の特約記者として編集長の田端邦彦さんと取材に。

「前回のショーに比べると燃料電池車など次世代のクルマの方向性がはっきりみえてきたのが今回のショーですね」と評価。続けて「環境問題など解決しなければならない問題に直面している現在、その姿が見えてきたことは心強い限り」とも。ご自身も電気自動車を駆って旅を続けているという鈴木さん「電気自動車に関しては記者という立場ではなく個人の立場でいつまでも関わり合っていきたい」と最後に夢を語ってくれた。

今日のイベント（予定）

★ **トラフィック戦隊 アンゼンジャーショー**
11:00～11:30
13:00～13:30
16:00～16:30
フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

★ **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
10:30～16:30　環境体験ランド（幕張海浜公園）

TOPICS　オフィシャルグッズ 売れ行き好調

ぬいぐるみのクマさんも人気

モーターショーの記念におみやげを何か―。25日は土曜日とあって来場者がつめかけ、お土産を売るオフィシャルグッズコーナーも大賑わい。北1ゲートなど場内3ヵ所に置かれているが、どこも親子連れがアレコレ品定めをするなどいつもと変わらぬ風景。

クッキー、ピンバッチ、モーターショーのロゴ入りTシャツ、マグカップなど18点の商品を並べているが、人気を集めているのがボールペン、お菓子、ロゴ入りのTシャツを着たぬいぐるみのクマさんといったところ。クマさんのTシャツには赤と白の2種類があり、中にはペアで買い求める人も。

TOPICS　全面リニューアルの 自動車ガイドブック

今回の「自動車ガイドブック」がちょうど創刊50号。その記念として特別企画・モータージャーナリストが選んだ「日本の道50選」、Q&A方式の「そこが知りたい！安全、環境、税金」など充実した読み物を掲載、実生活に役立つ情報誌にもなっている。AB判、544ページ。今回のショーのコンセプトカー72台を収録した冊子「Concept car À la carte」付きで1冊1200円。CD-ROM版も2000円で発売中。

今回は50号記念として自動車ガイドブック創刊号「MOTOR SHOW OFFICIAL CATALOGUE 1954」を原寸大で復刻出版。モーターショー会場のみの限定部数販売。価格は3000円。やすらぎのモールなど館内7ヵ所に置いた自動車ガイドブック販売所で買い求めることができる。

10月25日の入場者数 **122,500人**　／　入場者数合計 **169,500人**

販促物やマニュアル制作も
Just In Timeで行ないませんか？
クルマも印刷物も、これからは無駄を省いてスピーディに。詳しくはコチラ。
DocuPlaza（ドキュプラザ） http://www.docu-plaza.com/

Color DocuTech 60
機材協力：富士ゼロックス株式会社
用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。
eCOAT105
THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX